

大学・高専機能強化支援事業（支援2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【大学 一般枠、特例枠】実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F145110111523	改組内容	研究科等の設置・増員（一般枠）
大学名	宮崎大学	設置区分	国立	事業計画名	社会実装力・異分野協力を有する高度情報専門人材育成「先端情報コース」新設と先端IT人材の地元定着
学校種	大学	都道府県	宮崎県		

1. 年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和5年度	【申請時点の入学定員】工学研究科 134名、機械・情報コース内の情報系自定員18名 工学研究科工学専攻内に令和6年度に新コース「先端情報コース」を設置する方針を決定	【情報系組織の入学定員】工学研究科工学専攻（修士課程） 134人、機械・情報コース内の情報系自定員18人 令和6年度工学研究科工学専攻（修士課程）10人増員の設置認可申請を行い、申請通り、令和6年度工学研究科工学専攻（修士課程）定員が10名増の144人、「先端情報コース」の自定員を60人とし、情報系人材42人増が認定された。工学研究科工学専攻内に「先端情報コース」を設置し、従来の3コースから4コースに改編した。これに伴う学務規則等の改正を当初の計画より前倒して、令和5年度中に行った。	R5年度自己評価	【4】計画を上回って実施している。
	①7月 令和6年度募集要項公開 および 学生へ「先端情報コース」の周知・説明会の実施 ②7月から12月 機能強化のための教員9名（教授1，准教授2，助教6）採用の調査 ③9月から3月 「先端情報コース」カリキュラム開発 および AI開発環境、デジタル創造ステーション設備の構築 ④8月 工学研究科（新コース設置）大学院入試の実施 ⑤10月から1月 9名の教員公募 および 審査の実施 ⑥1月 教員（助教1名予定）採用 ⑦2月 「先端情報コース」説明用HPの公開	①6月 令和6年度募集要項公開 および 学生へ「先端情報コース」の周知・説明会の実施 ②7月から3月 機能強化のための特別教員9名（教授1，准教授2，助教6）採用の調査 ③9月から3月 「先端情報コース」カリキュラム開発 および AI開発環境、デジタル創造ステーション設備の構築 ④8月 工学研究科（新コース設置）大学院入試の実施 ⑤10月から3月 特別教員1名および特別准教授2名の審査を実施し、令和6年度より採用（特別教授1，特別准教授1は4月採用、特別准教授1は8月着任予定）。特別助教5名の審査を実施し、1名を1月に採用、他4名を令和6年4月に採用。残りの特別助教1名は本年度行った調査の結果、令和6年度中の審査・採用を行うこととした。 ⑥1月 教員（助教1名）採用 ⑦3月 「先端情報コース」説明用HPの公開	令和5年度に、令和6年度工学研究科工学専攻（修士課程）の定員を144人、「先端情報コース」の自定員を60人とした組織の改編を行い、その工学研究科大学院入試を計画通り実施した。また、機能強化のための特別教員9名（教授1，准教授2，助教6）の採用のための調査を行い、助教1名については審査時期を令和6年度としたが、それ以外の教員8名（教授1，准教授2，助教5）については審査を実施、1月に1名を採用し、4月に6名を採用することができた。残り准教授1名についても審査を終え8月着任予定であり、計画どおり目的に合った優秀な人材の採用ができています。さらに、AI開発やものづくりに必要な設備の導入も計画通り実施し、工学研究科内での教育・研究を強化することができる。これら当初の事業計画の達成に加えて、令和6年度から学部の数理解・データサイエンス・AI教育の応用基礎レベルの次のステップとして、「先端情報コース」学生を対象とした数理解・データサイエンス・AI教育「エキスパートレベル」の学内認定制度のプログラムを設置した。また、そのプログラムを社会に見る化するため、修了生にはオープンジョブを発行する仕組みを導入しており、先端IT人材を育成す体制強化をすることができた。このことより、計画を上回っていると判断した。	
令和6年度	工学研究科 144名とし、入学定員10名増、「先端情報コース」（自定員60名）により情報系人材42名増 工学研究科工学専攻内に「先端情報コース」を設置し、従来の3コースから4コースに改編		○年度自己評価	リストから選択してください。
	①4月 改編後の工学研究科スタート および 4月から10月 教員8名採用 ②4月 「先端情報コース」カリキュラム実施 ③4月 学生教育用AI開発環境の提供 ④4月 デジタル創造ステーション設備の提供 ⑤6月 工学研究科の定員増・改編に伴う学務規則等の改正 ⑥7月 学生へのインターンシップ、就職指導の実施 および 県内企業へ「先端情報コース」説明会等の実施 ⑦7月から9月 ソフト/ハードを繋ぐDX設備導入・実施 ⑧8月から10月 AI/DXによる実践的「インターンシップ」の実施 ⑨2月 「先端情報コース」用学習教材コンテンツ公開 ⑩2月 入学予定者への事前説明・アンケートの実施 および 大学院学生へのアンケート調査の実施 ⑪3月 工学部教育質保証向上委員会、AD委員会による「先端情報コース」カリキュラムの検討・評価・改善			
令和7年度	【情報系組織の入学定員】工学研究科工学専攻（修士課程） 144人		○年度自己評価	リストから選択してください。
	①4月 「先端情報コース」カリキュラム実施 ②4月 学生教育用AI開発環境の提供 ③4月 デジタル創造ステーション設備の提供 ④7月 学生へのインターンシップ、就職指導の実施 および 県内企業へ「先端情報コース」説明会等の実施 ⑤8月から10月 AI/DXによる実践的「インターンシップ」の実施 ⑥2月 入学予定者への事前説明・アンケートの実施 および 大学院学生へのアンケート調査の実施 ⑦3月 工学部教育質保証向上委員会、AD委員会による「先端情報コース」カリキュラムの検討・評価・改善			
令和8年度	【情報系組織の入学定員】工学研究科工学専攻（修士課程） 144人		○年度自己評価	リストから選択してください。
	①4月 「先端情報コース」カリキュラム実施 ②4月 学生教育用AI開発環境の提供 ③4月 デジタル創造ステーション設備の提供 ④7月 学生へのインターンシップ、就職指導の実施 および 県内企業へ「先端情報コース」説明会等の実施 ⑤8月から10月 AI/DXによる実践的「インターンシップ」の実施 ⑥2月 入学予定者への事前説明・アンケートの実施 および 大学院学生へのアンケート調査の実施 ⑦3月 工学部教育質保証向上委員会、AD委員会による「先端情報コース」カリキュラムの検討・評価・改善			
令和9年度	【情報系組織の入学定員】工学研究科工学専攻（修士課程） 144人 令和11年度工学研究科の入学定員、「先端情報コース」の自定員の検討		○年度自己評価	リストから選択してください。
	①4月から 各種アンケート結果等をもとに令和11年度工学研究科の定員、自定員の検討 ②4月から6月 ソフト/ハードを繋ぐDX設備の導入と演習開始 ③4月 「先端情報コース」カリキュラム実施 ④4月 学生教育用AI開発環境の提供 ⑤4月 デジタル創造ステーション設備の提供 ⑥7月 学生へのインターンシップ、就職指導の実施 および 県内企業へ「先端情報コース」説明会等の実施 ⑦8月から10月 AI/DXによる実践的「インターンシップ」の実施 ⑧2月 入学予定者への事前説明・アンケートの実施 および 大学院学生へのアンケート調査の実施 ⑨3月 工学部教育質保証向上委員会、AD委員会による「先端情報コース」カリキュラムの検討・評価・改善			
令和10年度	【情報系組織の入学定員】工学研究科工学専攻（修士課程） 144人		○年度自己評価	リストから選択してください。
	①4月から6月 AI開発環境、デジタル創造ステーションの最新設備への更新の実施 ②4月から6月 教員9名の採用後4年間の評価審査の実施（結果：令和11年度助教2名、12年度助教4名を工学部承継内とする予定） ③4月 「先端情報コース」カリキュラム実施 ④4月 学生教育用AI開発環境の提供 ⑤4月 デジタル創造ステーション設備の提供 ⑥7月 学生へのインターンシップ、就職指導の実施 および 県内企業へ「先端情報コース」説明会等の実施 ⑦8月から10月 AI/DXによる実践的「インターンシップ」の実施 ⑧8月から1月 機能強化のため新たに教員（助教2名予定）採用を計画、その調査、教員公募、審査の実施 ⑨2月 入学予定者への事前説明・アンケートの実施 および 大学院学生へのアンケート調査の実施 ⑩2月 「先端情報コース」説明用HPのリニューアル公開 ⑪3月 工学部教育質保証向上委員会、AD委員会による「先端情報コース」カリキュラムの検討・評価・改善			
令和11年度	【情報系組織の入学定員】工学研究科工学専攻（修士課程） 144人		○年度自己評価	リストから選択してください。
	①4月から10月 機能強化のための教員2名（予定）採用 ②4月 「先端情報コース」カリキュラム実施 ③4月 学生教育用AI開発環境の提供 ④4月 デジタル創造ステーション設備の提供 ⑤7月 学生へのインターンシップ、就職指導の実施 および 県内企業へ「先端情報コース」説明会等の実施 ⑥8月から10月 AI/DXによる実践的「インターンシップ」の実施 ⑦8月から1月 機能強化のため新たに教員（助教4名予定）採用を計画、その調査、教員公募、審査の実施 ⑧2月 入学予定者への事前説明・アンケートの実施 および 大学院学生へのアンケート調査の実施 ⑨3月 工学部教育質保証向上委員会、AD委員会による「先端情報コース」カリキュラムの検討・評価・改善			
令和12年度	【情報系組織の入学定員】工学研究科工学専攻（修士課程） 144人		○年度自己評価	リストから選択してください。
	①4月から10月 機能強化のための教員4名（予定）採用 ②4月 「先端情報コース」カリキュラム実施 ③4月 学生教育用AI開発環境の提供 ④4月 デジタル創造ステーション設備の提供 ⑤7月 学生へのインターンシップ、就職指導の実施 および 県内企業へ「先端情報コース」説明会等の実施 ⑥8月から10月 AI/DXによる実践的「インターンシップ」の実施 ⑦2月 入学予定者への事前説明・アンケートの実施 および 大学院学生へのアンケート調査の実施 ⑧3月 工学部教育質保証向上委員会、AD委員会による「先端情報コース」カリキュラムの検討・評価・改善			
令和13年度	【情報系組織の入学定員】工学研究科工学専攻（修士課程） 144人 令和15年度工学研究科の入学定員、「先端情報コース」の自定員の検討		○年度自己評価	リストから選択してください。
	①4月から6月 各種アンケート等を用いて令和15年度工学研究科の定員、自定員の検討 ②4月 「先端情報コース」カリキュラム実施 ③4月 学生教育用AI開発環境の提供 ④4月 デジタル創造ステーション設備の提供 ⑤7月 学生へのインターンシップ、就職指導の実施 および 県内企業へ「先端情報コース」説明会等の実施 ⑥8月から10月 AI/DXによる実践的「インターンシップ」の実施 ⑦2月 入学予定者への事前説明・アンケートの実施 および 大学院学生へのアンケート調査の実施 ⑧3月 工学部教育質保証向上委員会、AD委員会による「先端情報コース」カリキュラムの検討・評価・改善			
令和14年度	【情報系組織の入学定員】工学研究科工学専攻（修士課程） 144人		○年度自己評価	リストから選択してください。
	①4月 「先端情報コース」カリキュラム実施 ②4月 学生教育用AI開発環境の提供 ③4月 デジタル創造ステーション設備の提供 ④7月 学生へのインターンシップ、就職指導の実施 および 県内企業へ「先端情報コース」説明会等の実施 ⑤8月から10月 AI/DXによる実践的「インターンシップ」の実施 ⑥2月 入学予定者への事前説明・アンケートの実施 および 大学院学生へのアンケート調査の実施 ⑦3月 工学部教育質保証向上委員会、AD委員会による「先端情報コース」カリキュラムの検討・評価・改善 令和15年4月から6月 教員2名の採用後4年間の評価審査の実施			

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	宮崎大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。	
	確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
	対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック
②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）	
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
⑤	計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
⑥	特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）を含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。	
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。	
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
⑧	教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）	
	既設の情報系分野に係る研究科等を有する	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
⑨	機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
⑩	計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
⑪	国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期間終了時まで他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
⑫	教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。	
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
⑬	文部科学省が実施する数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。	
	認定を受けている、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
	認定を受ける計画が進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	宮崎大学
-------------	-------	-----	------

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。		
	認定を受けておらず申請する意向もない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>・2023年5月に宮崎県デジタル人材育成コンソーシアム（事務局：宮崎大学学び・学生支援機構）（以降、コンソーシアム）を設立した。コンソーシアムには、旭化成、宮崎銀行、IT企業のデンサン、E&Mが参画している。また、宮崎県が支援する立場で参画している。宮崎大学工学部・工学研究科とコンソーシアムが連携して、宮崎県内に情報系専門技術者を定着させる様々な活動を計画している。</p> <p>・現在、文部科学省「成長分野における長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」にデジタル分野で申請中であり、宮崎大学工学部・工学研究科がコンソーシアムと連携してリカレント教育を展開し、工学研究科の教育にも活用する計画である。</p> <p>・令和4年度からAI技術を用いた地元企業の課題解決する「地域課題解決型インターンシップ」を株式会社デンサンと連携して実施しており、それを高度化し、企業等と連携した大学院用のAI技術を用いた社会実装を試みる「インターンシップ」を計画している。</p> <p>上記の企業等との連携による取組を行い、社会のニーズを常に把握しながら効果的な人材育成を行う計画である。</p>	<p>・宮崎県デジタル人材育成コンソーシアムにて、令和5年度大学生向けにデジタルトップ人材の講話や県内の先端企業の見学会を企画・実施している。この連携活動を通して、地元企業等の状況を知ってもらう機会を提供している。</p> <p>・文部科学省「成長分野における長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」にデジタル分野にて、E-learning向けコンテンツを、コンソーシアムと宮崎大学が連携して開発をした。学生の教育でも活用できるように検討している。</p> <p>・令和5年度「地域課題解決型インターンシップ」を工学部学生を対象に、宮崎県内企業2社と実施した。うち1社のインターンシップ成果は、実際の現場で活用されている。大学院での「インターンシップ」強化のため、実務家教員と宮崎県内企業を訪問するなどし、検討を始めている。</p>	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>・JST「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に令和5年度採択された。本事業により、宮崎市内の中学校を中心に、女子中学生向けの理系進学のための取組、1）工学部の女性研究者や女子学生が宮崎市内中学校を訪問する「サイエンスキャラバン」；2）宮崎大学工学部において、ミニ講義や実験体験を提供する「アマテラスサイエンス体験講座」等を実施する。</p> <p>・宮崎市が行っている中学2年生を対象とした職業紹介のイベント「夢パーク」に毎年参加し、工学部から複数のブースを出展して中学生へ工学部の魅力を紹介しており、支援期間中も継続し実施する。</p> <p>・宮崎県と連携して、県内外の中学生の修学旅行の受け入れの取組を行っており、工学部の設備見学やGX関係の実習などの体験を中学生向けに提供しており、支援期間中も継続し実施する。</p> <p>上記の取組を行うことで、中学生に工学分野進学への興味を持ってもらい、将来の高度情報専門人材へ繋げる。</p>	<p>・JST「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択され、各種イベントを実施した。イベントには、延べ500人以上が参加した。参加者へのアンケート結果では、「理系の進路を前向きに選択しようと思えましたか？」という設問に96%が肯定的な回答をした。また、自由回答でも、工学部での学びの面白さを感じ、より詳しく知りたいとの声が寄せられた。これらのことから、女子中高生が理系女子を目指すきっかけ作りができたと考えられる。</p> <p>・令和5年度宮崎市主催「夢パーク」に参加し、大塚中学校31名、清武中学校67名の中学2年生を対象に工学部のブースを出展し、中学生へ工学技術体験する活動を実施した。また、施設見学（2023.11.24（金）日南学園中学校3年生40名、2023.12.26（火）日之影中学校1、2年生15名）、GX体験学習（実験）開催（日南学園中学校2年生20名、宮崎中学校2年生30名、清武中学校2年生30名、赤江中学校2年生30名）、公開講座2回開催（中学生 延べ30名）を実施し、多くの中学生に工学部の魅力を紹介する取り組みを行った。</p>	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>・令和7年度より、宮崎大学では入試制度を変更し、学校推薦型選抜を導入する。学校推薦型選抜の特色として、宮崎県就職希望枠と女子枠を設ける。これにより、女子高校生へ宮崎大学工学部へ進路選択をエッジアップすることで、一定数の女子学生の入学を確保する。</p> <p>・令和4年度より、高校生対象の「ミヤダイ工学塾」を開催し、高校生へ工学部の魅力、工学部OBの働き方などを紹介している。その中で女子高校生向けの理系進路選択支援を行っており、現役女子大学生から、女子高校生へ工学部の魅力を紹介している。</p> <p>・工学研究科では、研究推進及び日本人学生への教育を目的として、積極的に優秀な留学生確保に向けた取り組みを行っている。インドネシア及びミャンマーとのDDP、インドネシアとのLPなどにより1年間のプログラムであるが多くの留学生が入学し、学位を取得している。その結果、多くの修了した学生が本学の博士課程へ入学するなど実績をあげている。</p> <p>上記の取組を行うことで、女子学生、留学生を確保し、女子高度専門人材及び国際的視野を持つ高度専門人材を輩出する。</p>	<p>・令和7年度入試より、学校推薦型選抜にて女子枠（募集人員14名）を導入することを決定し、令和5年度一般にホームページ等で公表している。さらに、学校推薦型選抜にて宮崎県就職希望枠を導入し、その中で普通科区分、専門学科・総合学科区分を設置している。卒業後、宮崎県内で就職し、工学人材として活躍したい熱意のある人の確保に向けた取組を進めている。</p> <p>・「ミヤダイ工学塾」を令和5年度は3回実施（7月宮崎南高等学校で開催し高校生38名参加、12月佐土原高等学校で開催し高校生22名参加、3月宮崎大学で開催し、保護者・高校生を含めて161名参加）し、多くの高校生に対して工学部の魅力を紹介した。7月と12月の開催時には、地元企業の方による理系の働き方の紹介や、女子大学生からの女子高校生への工学部の魅力紹介のイベントを実施している。</p> <p>・留学生確保について、令和5年度DDPはコロナの影響で募集を停止しており、LPはマッチングを行ったが不成立で、いずれも受け入れはなかった。またLP事業は現在終了となっている。新規での受け入れはなかったが、DDP修了生が令和5年度に2名博士課程に入学している。</p>	

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>・令和4年度に本学と南九州大学、宮崎国際大学、宮崎学園短期大学の4校でSPARC（地域活性化人材育成）事業に採択されている。本学のデジタル・情報分野のリテラシーの内容はこれらの大学でSTEAM教育の主要な科目と位置付けて、連携開設科目として、連携して取り組む計画である。また、その延長として、高等教育コンソーシアム宮崎の他大学にて情報分野の機能強化を図る際には、機能強化に向けた取り組みに関して協議し、連携していく計画である。</p> <p>・宮崎県内にある都城工業高等専門学校と、本学が認定されている数理・データサイエンス・AI教育（応用基礎）の内容に関して連携を図り、相互に協力していく計画である。</p> <p>・隣県の鹿児島大学と、令和4年度から数理・データサイエンス・AI教育（応用基礎）の内容に関して、連携を図り、相互に協力していく体制を整えている。</p>	<p>・SPARC事業と連携して、南九州大学に「データサイエンス入門」の教材コンテンツを提供している。今後、県内の他の大学と数理・データサイエンス・AI教育を中心に連携、効率化を図っていく計画である。</p> <p>・鹿児島大学と情報／データサイエンスの教育コンテンツの共有の件で、令和5年3月と6月にオンライン会議を開催し、お互いの大学の情報交換を行っている。継続して協力していく体制を整えている。</p> <p>・都城工業高等専門学校と令和6年1月に工学部執行部教授5名と高専側は校長を含む4名の教員との意見交換会を開催し、お互いの教育・研究面で連携していく体制を整えた。</p>	

大学名	宮崎大学	改組内容	研究科等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	-----------------

3-3. 学士課程

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	
大区分	小区分	項目	単位																				
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1,025	1,025																		
		入学者数	人	1,055	1,047																		
	その他の学期	入学定員	人	***	***																		
		入学者数	人	***	***																		
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,025	1,025	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	1,055	1,047	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.03	1.02	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
	収容定員等	収容定員(C)	人	4,400	4,400																		
		編入学定員	人	10	10																		
		在籍者数(D)	人	4,639	4,644																		
		編入学者数	人	11	6																		
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.05	1.06																		

4. 外部資金の状況（全学）

年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円	4,383,669																			

- ・1-2. 修士課程（工学研究科）の令和5年度および令和6年度のその他の学期の入学定員0人とは、若干名を意味している。
- ・2-1. 博士課程（農学工学総合研究科）の5年度および令和6年度のその他の学期の入学定員0人とは、若干名を意味している。
- ・2-2. 修士課程（工学研究科工学専攻先端情報コース）の令和5年度および令和6年度のその他の学期の入学定員0人とは、若干名を意味している。
- ・2-3. 学士課程の収容定員等の編入学定員の令和5年度および令和6年度の10人は、工学部全体での定員である。
- ・3-1. 博士過程（農学工学総合研究科）（医学獣医学総合研究科）の令和5年度および令和6年度のその他の学期の入学定員0人とは、若干名を意味している。
- ・3-2. 修士課程（工学研究科）（農学研究科）の令和5年度および令和6年度のその他の学期の入学定員0人とは、若干名を意味している。